

〈震災から3年目を迎えて〉 福島

動き出した福島の漁業復興

コープふくしまコープマート方木田店で、復興の取り組み状況の説明



説明に、熱心に耳を傾ける組合員たち。

3月9日、福島県主催の「ふくしまの海産物～漁業復興に向けての取り組み」が、コープふくしまコープマート方木田店で開催され、約100人の組合員が来場しました。漁業復興の取り組みを、店頭で直接消費者に説明するのは、県としては初めての試みです。

福島県農林水産部参事兼農産物流通課長の吉田 肇さんは、「福島県では、放射線に関する世界一厳しい検査体制を敷き、その結果をホームページで公開しています。全国の皆さんに、福島の取り組みを知って、信頼していただきたい」とアピールしました。

相馬双葉漁業組合総務部長の遠藤和則さんは、「現在は、まだ試験操業で、安全な13魚種が流通しています。本来は約150魚種ですから、まだごく一部です」と現状を報告。

コープふくしま理事長の今野順夫さんは、「生協は、消費者の味方の組織。ひるがえれば、生産者もまた消費者であり、協力しながら歩むこ

とが大切」と話し、家庭の食事の放射性物質摂取量調査から、県内の食材を使った料理は健康に影響ないと発表しました。

この日、方木田店の水産売り場には、相馬市の原釜漁港に水揚げされたミズダコ、キチジ、ズワイガニなどが並び、組合員から歓迎されました。震災から2年、福島の水産業は、少しずつ復興に向かって動き出しています。



活気ある方木田店の水産売り場の様子。

写真で見る「被災地のいま」

撮影者：フリーライター 西村一郎
(コープふくしま理事 渡邊洋子さん案内の下)
2013年3月15日撮影



松原や堤防も津波でなくなり
1本だけ残った松 (南相馬市の海岸)。



砂に埋もれた子どもの靴 (南相馬市の海岸)。



震災の傷跡が今も残る (南相馬市)。



地盤沈下し、水たまりが所々見られる (南相馬市)。



片付けが進まない倒壊した家屋 (南相馬市)。



建物の基礎だけになった場所には
雑草が生えていた (南相馬市)。